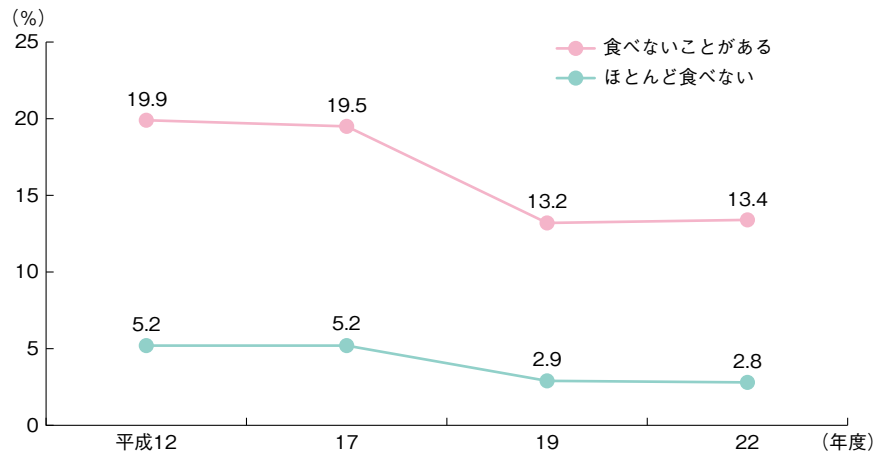
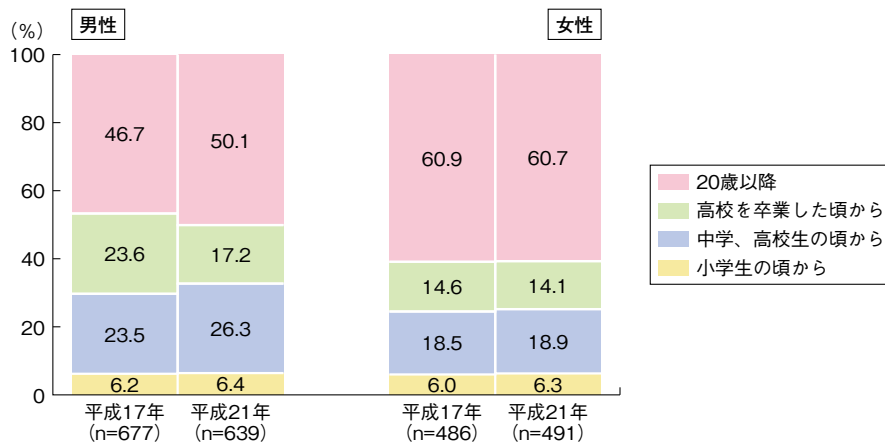


図表-36 中学校2年生の朝食欠食率



資料：特殊法人日本体育・学校健康センター平成12年度「児童生徒の食生活等実態調査」、独立行政法人日本スポーツ振興センター平成17年度「児童生徒の食生活等実態調査」、平成19年度、平成22年度「児童生徒の食事状況等調査」

図表-37 朝食欠食が始まった時期（20歳以上）



資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」(平成21年)

平成27年4月から新たにスタート！ 「健やか親子21（第2次）」

●「健やか親子21（第2次）」の策定

「健やか親子21」は、関係者や関係機関・団体が一体となって21世紀の母子保健の課題を解決しようと取り組む国民運動です。

平成13年からスタートした第1次の取組では、課題について全体の約8割が目標を達成（改善）したと評価されました。一方で、子供のむし歯の有病率などの実態において、都道府県により健康格差が生じていることも明らかになりました。

このような状況から、平成27年4月から開始される「健やか親子21（第2次）」では、特に健康格差の解消に向けた取組を進めていくことが重要であるため、10年後の目指す姿を“すべての子どもが健やかに育つ社会”として取組を推進していくこととしました。これは、日本全国どこで生まれ育っても一定の質の母子保健サービスが受けられ、生命が守られるよう地域間での健康格差の解消が必要であることや、疾病や障害、経済状態等の個人や家庭環境の多様性を認識した母子保健サービスを展開することが重要であるという共通認識によるものです。

なお、“すべての子どもが健やかに育つ社会”の実現に向け、3つの基盤課題と2つの重点課題を設定するとともに、具体的に52の指標を設けて取組を推進していくことにしています。(図-1、表-1)。

図-1 健やか親子21（第2次）イメージ図

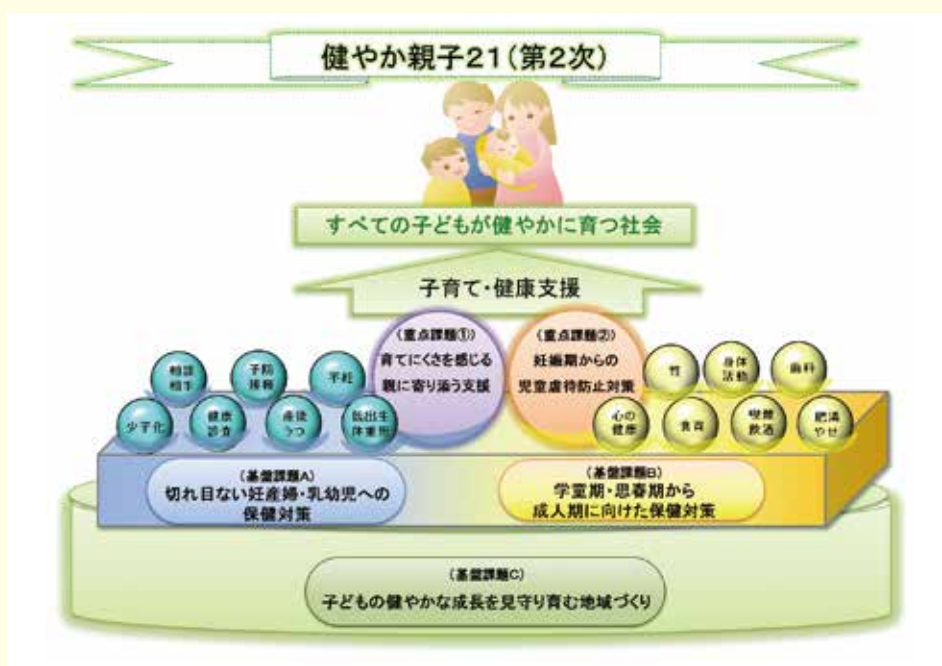


表-1 「健やか親子21（第2次）」における課題の概要

課題名		課題の説明
基礎課題A	切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策	妊娠・出産・育児期における母子保健対策の充実に取り組むとともに、各事業間や関連機関の有機的な連携体制の強化や、情報の利活用、母子保健事業の評価・分析体制の構築を図ることにより、切れ目ない支援体制の構築を目指す。
基礎課題B	学童期・思春期から成人期に向けた保健対策	児童生徒自らが、心身の健康に関心を持ち、より良い将来を生きるため、健康の維持・向上に取り組めるよう、多分野の協働による健康教育の推進と次世代の健康を支える社会の実現を目指す。
基礎課題C	子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり	社会全体で子どもの健やかな成長を見守り、子育て世代の親を孤立させないよう支えていく地域づくりを目指す。具体的には、国や地方公共団体による子育て支援施策の拡充に限らず、地域にある様々な資源（NPOや民間団体、母子愛育会や母子保健推進員等）との連携や役割分担の明確化が挙げられる。
重点課題①	育てにくさを感じる親に寄り添う支援	親子が発信する様々な育てにくさ ^(※) のサインを受け止め、丁寧に向き合い、子育てに寄り添う支援の充実を図ることを重点課題の一つとする。 (※) 育てにくさは：子育てに関わる者が感じる育児上の困難感で、その背景として、子どもの要因、親の要因、親子関係に関する要因、支援状況を含めた環境に関する要因など多面的な要素を含む。育てにくさの概念は広く、一部には発達障害等が原因となっている場合がある。
重点課題②	妊娠期からの児童虐待防止対策	児童虐待を防止するための対策として、①発生予防には、妊娠届出時など妊娠期から関わるのが重要であること、②早期発見・早期対応には、新生児訪問等の母子保健事業と関係機関の連携強化が必要であることから重点課題の一つとする。

● 子供の食生活や健康に関する目標設定

第1次の最終評価において、「朝食を欠食する子ども」をなくすことはできませんでした。しかし、子供の生活習慣の形成という観点から、「朝食を欠食する子どもの割合」を減らす取組の推進は今後も重要です。

また、食については、家庭の食に対する意識や日々の食行動や食習慣にも影響を与える可能性があります。誰かと一緒に食事をする頻度が高い子供は、その頻度が低い子供よりも、健康状態や食物・栄養素等の摂取状況等が良いという結果が出ています。このため、朝食欠食の状況だけでなく、共食の状況についてもその推移を追っていくことにしました。

この他、健康について主体的に考え、取り組むことが将来の自分の健康のためには重要であることから、子供たちが自ら健康課題を解決できるよう、地域と学校とが連携して必要な知識や情報、交流の場を広く提供される体制を構築していくことを目指す指標も新たに設定しています。

指標番号	指標名	ベースライン	中間評価目標 (5年後)	最終評価目標 (10年後)
基盤課題 B-9	朝食を欠食する 子どもの割合	小学5年生 9.5% 中学2年生 13.4% (平成22年度)	小学5年生 5.0% 中学2年生 7.0%	中間評価時に設定
基盤課題 B-4	児童・生徒における 痩身傾向児の割合	2.0% (平成25年度)	1.5%	1.0%
基盤課題 B-5	児童・生徒における 肥満傾向児の割合	9.5% (平成25年度)	8.0%	7.0%
基盤課題 B-11	地域と学校が連携した健康等に関 する講習会の開催状況 ^{※1}	53.6% (平成25年度)	80.0%	100%
基盤課題 B-参考④ ^{※2}	家族など誰かと食事をする子ども の割合	朝食 小学5年生 84.0% 中学2年生 64.6% 夕食 小学5年生 97.7% 中学2年生 93.7% (平成22年度)	—	—

※1 食育を含む

※2 参考とする指標：具体的な目標値は掲げないものの、データの推移等を継続的に注視することが必要と考えられる指標

●「健やか親子21（第2次）」の推進

「健やか親子21（第2次）」では、これまで以上に、国民の皆さんに国民運動の趣旨を知っていただき、“すべての子どもが健やかに育つ社会”の実現に向け、それぞれの立場から参画していただけるよう盛り上げていきたいと考えています。「健やか親子21（第2次）」のポスターやパンフレットを作成し、ホームページにも掲載していますので、ぜひご利用ください。

【参考資料】

「健やか親子21（第2次）」公式ホームページ

<http://rhino3.med.yamanashi.ac.jp/sukoyaka2/>

「健やか親子21（第2次）」周知用ポスター

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/sukoyaka001.pdf>

「健やか親子21（第2次）」周知用パンフレット

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/sukoyaka002.pdf>